

健康かごしま21への県下自治体の取り組みと展望

北村 尚浩*

昨年から鹿児島県でも「健康かごしま21」の2次が策定されまして、平成34年までの10年間、そういった健康づくり計画が推進されることになっています。もちろんこの前には「健康かごしま21」の1次という取り組みがなされていたわけですが、その達成状況ですとか健康状況実態調査、こういったものを踏まえ2次というものが策定されておるようです。ただ、1次の達成状況については、県のレベルでの達成状況は示されているのですが、市町村レベルでみていきますとこれは非常につかみにくいというのが現状ではないかと感じました。そこで、より地域住民に近い、市町村レベルでの「健康かごしま21」にどのように各市町村が取り組んでいるのか、そしてそれぞれ目標の達成のために具体的にどういった事業がなされているのか、そういった視点からアンケート調査を行いました。今日はそのアンケート調査の結果から、「健康かごしま21」1次の部分で設定された、運動に関する目標項目の取り組み状況と達成状況、そして2次で示されました目標項目の取り組み状況についてご報告をさせていただきます。と思っています。

アンケート調査の概要ですが、鹿児島県内、全43市町村を対象としたアンケート調査を行いました。年末の非常に慌ただしい時期にこのアンケートをお願いいたしまして、ご担当の皆さんにはご迷惑をお掛けしたと思うのですが、ご協力をいただいたところで22の市町村、半数以上のところからご回答をいただきました。ありがとうございます。調査内容については先程から申し上げておりますように、「健康かごしま21」の1次への取り組み状況と達成度に関する質問、それから「健康かごしま21（第2次）」、昨年からのスタートしております。こちらへの取り組み状況に関して、そして鹿屋体育大学、本学との連携について等などということをお訊ねしております。今日話をさせていただきますのは、この「健康かごしま21（第1次）」への取り組みと達成度、それから2次への取り組み状況についてお話をさせていただきます。

まず、「健康かごしま21（第1次）」への取り組み状況がどのようなであったかということについてご報告をさせていただきます。「健康かごしま21」の1次で目標項目として掲げられておりましたのが、ザクッとみますとこの6つの項目、これに性別で分けていきますので更に細かくはなるんですけど、まず1つは意識的に運動を心がけている人を増やそうではないかということです。男性72%、女性75%以上にしたいと。それから、日常生活における歩数の増加ということで、男性8,700歩以上、女性8,000歩以上。それから運動習慣者の増加ということで、男性30%以上、女性27%以上という目標。この辺りが成人を対象とした目標と位置付けられるかと思えます。それから外出について積極的な態度を持つ人の増加ということで、60歳以上の男性が70%以上、80歳以上で52%以上にしようということです。それから何らかの地域活動を実施している人を増やそうということで、60歳以上の男性で48%以上、女性で35%以上。最後に日常生活における歩数の増加ということで、70歳以上の男性6,800歩、女性は6,200歩以上というように。こちらは60歳以上という括り、高齢者とは限らないですが、高齢者を対象とした目標を設定したということになっておりました。こういった目標、県の計画が立ててあったのですが、「健康日本21」ではどうだったかということで、それぞれの運動に関する部分で代表項目というのが2つ挙げられておまして、日常生活における歩数の増加ということと運動習慣者の増加、これがどれぐらい達成されたかという評価が出ております。全国のレベルで見ますと歩数は増加しなかった、むしろ悪くなっている。それから運動習慣者の増加という点でも変化がなかったというような、DとCという達成状況の評価がついておりました。そして都道府県でこういったものをどのぐらい達成したのかということで、目標を達成した割合というのが示されておりますけれども、歩数の増加を目標に掲げた都道府県と言うのは94%、そして運動習慣者の増加を掲げたところは100%、全ての都

*鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター長

道府県で運動習慣者を増加させようという目標を掲げて取り組んできたということです。で、市町村のレベルのところに来て、そのために施策を充実したかどうかということで見ますと、歩数の増加のための施策を充実させたというところは43%。そして運動習慣者の増加のための施策を充実したところというのは58%というように、県として目標を掲げるところは非常にたくさんあったのですけれど、それを実際に地域の人達に関連してくる市町村レベルのところでは、そのためにこういう策をやっている取り組みまではなかなか至っていなかったという現状が分かるものだと思います。「健康日本21」と「健康かごしま21」への最終評価ということで、先程挙げました3つの項目について、最終評価を並べてみました。項目によっては達成されているものもありまして、必ずしも全部が駄目だということではないです。例えば80歳以上だと大丈夫だったとか、70歳以上の女性だと大丈夫だとか、そういったものがいくつかあるのですけれども、全体的に見ていきますと、運動習慣者の増加というものが改善傾向にあるという評価がなされているところ以外はあまり思わしくない成果であると、「健康かごしま21」の1次ではこういった評価になっているということでございます。

そして私どものアンケートでお訊ねした取り組み状況について、それぞれの目標項目についてどういったことを取り組んでおられますかということをお訊ねした結果です。まず、行ったか行わなかったかということで、目標として掲げてそういった事業をやってきたかということなのですが、運動を心がけている人の増加ということ、それから運動習慣者の増加という、成人男子のところでは8割以上のところで行ったということに回答をいただいております。その反面、高齢者の地域活動実施者の増加というものを行ったというのは半数に満たなかったということになっています。歩数の増加ですとか運動習慣者の増加といったことに関しては多くの自治体に取り組んでいるんですけど、高齢者の歩数の増加に関しては4割の自治体では取り組まなかったというような報告を受けております。それぞれの目標の達成状況ということなのですが、先程お話をしましたように性別で分かれている部分があるのですが、それは関係無しにといえますか、そこは問うておりません。ただ、一部達成というところには、この年代では達成できたけれど、他の年代では駄目だっ

た、そんな回答が含まれております。達成率が一番高かったのは、高齢者の地域活動実施者の増加、取り組んだ市町村で4割が達成したというふうに回答しております。ただ先程申し上げましたように目標として実施したところがそんなに多くなかったということが、この項目に関してはあります。それから運動習慣者の増加ですとか、高齢者の積極的な外出とか、こういったものは大体3割程度の達成率というふうに見ていいかと思います。逆に未達成というのが多かったのが、成人のこの部分です。運動を心がけている人を増やすというところ。1/3の自治体で、それでも6なのですが、1/3のところでは達成できなかったと答えているわけです。こうやってみますとなかなか達成率ということを見ていくと、非常に決して高くはないという様子が分かるのですけれど、私はそれ以上に問題だと思うのは、「分からない」という回答です。ざっと見ていきましたも、高齢者の歩数の増加というのは目標として設定したのだけれど、9の自治体、%に直しても7割なのですけれど、その自治体が「分からない」と回答している。それから地域活動実施者の増加に関しても6割のところ「分からない」といっている。それから歩数の増加というところでも「分からない」というふうに言っています。つまり目標を設定されて、それからいろんな事業をされてはいるのですけれど、その取り組みの成果というものが具体的に評価として挙がってこないという、事業評価という部分が十分にされずに次の計画の策定ということになかなか成果を反映することができていないのではないかとということが問題だと考えるわけです。

続きまして、新しい計画、第2次の計画にどのように取り組んでいるかということについてご報告させていただきます。では、健康づくり推進計画等を作っていますかということをお訊ねした質問なのですが、既に作っている、でき上がっているというところは5つの自治体、それから今作っているというところは3つ。そして4つの自治体では1次計画を実施中というところがありました。つまり、「健康日本21（第1次）」の段階で各市町村での健康づくり推進計画を作ってきたわけなのですけれど、作る時期が必ずしも早い時期ではなく後半のところで作っていると、そういったところが今から1次に取り組むのですというところも4つあります。未策定というところも9つありまして、9つのなかでこれから作る予定はあるということ

ろが6つ、作ってもいないし、これから作る予定もないというところは2つありました。「健康日本21」の2次がスタートしてまだ1年経ちませんし、「健康かごしま21」も同じ1年経たないような状況ですので、新しい計画が作られてからそんなに経っていないのでこれからの目処が立たないというのがあるのかなと感じたというところです。それから「健康かごしま21(第2次)」のほうで目標項目として掲げられているのを挙げております。1つはやはり日常生活における歩数の増加というのが挙げられております。それから運動習慣者の増加とこういった個人レベルでの目標というのが今回も掲げられているわけなのですが、今回非常に大きな変化だと思うのですが、先程宮地先生のお話にもありましたように、環境を整備していくことが必要ではないかということで、住民が運動しやすいまちづくり、環境整備をしていくということが「健康かごしま21」のなかでも掲げられています。まさに「健康日本21」の思想といいますか、運動するためにインフラを整備していく、ある意味、行政の責任といいますか、そういったところまで踏み込んだ目標を掲げているというところが大きな特徴ではないかと思えます。この今年度、昨年4月からスタートした計画なのですが、それにどのように取り組んでいますかということで訊ねてみたところが、現在取り組まれているのは成人と高齢者の運動習慣者の増加という部分のところ。運動習慣者を増やしていこうということに関して13市町村で、もう今取り組んでいますという回答をいただきました。その次に、子供の運動習慣ということも10市町村で既に取り組んでいますということが言われています。こうしてみますと、歩数を増やすということよりも、やはり運動習慣をつけさせたいというところに計画の重心が置かれているのかなという印象を持ちます。それと子供の運動習慣者の増加ということも私は意外に多いなと思ったのですが、鹿児島県の皆さんは昨年の体力・運動能力調査を見ますと、鹿児島県の小学5年生の体力が全国で、男子は37番、女子が35番。中学生の男子が41番、女子が35番。非常に私はびっくりしたんです。下のほうにありまして、そういったことがやはり地域の皆さんにも受け止められているのかなという印象を持ちました。そういう意味でも子供の運動習慣を増やしていくというのはとても大事なことではないかと思えます。その一方で、2次で新たに組み込まれました、運動しやすい


まちづくりという部分なのですが、行っているという回答があったのは6つだけ。行っていないと回答があったのが10でしたということです。じゃあこれからどうするのかということなのですが、取り組んでいないという市町村の今後の取り組みについて示しています。現在取り組んでいないし、これからも取り組む予定がないというふうに答えたところがこれだけあるわけです。歩数の増加は、成人に関して取り組む予定はありませんというところは35%ありました。それから子供の運動習慣者の増加ということでも、取り組む予定はないというところは4市町村、33%となっています。運動しやすいまちづくりということも、今のところ取り組む予定はありませんというところは5市町村ですので31%あったということです。この運動しやすいまちづくり、インフラの整備ということになりますと非常に大きな予算の部分も関連してくるために、なかなか一筋縄ではいかない部分ではあるかと思うのですが、先程からの話からいいますと、やはり個人に対して運動しなさい、運動しなさいということだけではなく、その受け皿をどういうふうに整えていくのかということ是非常に大事な課題ではないかというふうに思います。ですけれど、予定なしというところがこれだけありますということです。そして今の環境整備の部分とも関連すると思うのですが、文部科学省が総合型地域スポーツクラブというものを各地に作ろうということとでどんどん推進しているわけなのですが、そういった総合型の地域スポーツクラブとの連携を持っているかどうかということも訊ねた結果です。22のうち、連携しているというふうに答えたところは7つ、連携していないという答えは8つの市町村、それから分からないというところが4つありました。7つの市町村では、総合型の地域スポーツクラブと何らかの連携を持って、この「健康かごしま21」に取り組んでいこうということを考えていらっしゃるわけなのですが、目標項目のうちどういった面で連携を持っていますかということも訊ねたところでは、運動習慣者の増加に関してというところで連携を持ちつつ進めている、それから歩数の増加ということでも連携しながらやっていますという回答をいただいています。運動しやすいまちづくりといいますとやはりテーマが大きく感じるのかもしれませんが、そういった部分での連携があるところは1つだけという結果でございました。で、運動しやすいまちづくりとい

たときに、公園を造るだとか体育館を造るだとかいろんなことがあるのですが、地域にあるスポーツ団体、こういったところと連携を取りながら進めていくことも、健康づくりを推進していくうえでは有効なのではないかなというふうに思っています。ただ、地域の総合型クラブもそれぞれ課題を抱えている部分が多いところはありますので、できればそこを相互補完的なかたちでやっていけるといいのではないかなというふうに思います。

皆さんのお手元に1次からの課題、2次に向けての課題ということで、自由記述というかたちで回答いただいたものを、そのまま文章として挙げております。1次からの課題という部分では、1次をやったときの反省と申しますか、達成できなかったというような話も入っているわけなのですけれど、40歳台の男性の実施率が課題であるとか、他の領域と比較すると運動の領域は効果が出にくいというようなことが、現場の方からの声としては挙がっています。それから鹿児島の特徴でもありますけど、離島の交通手段が少ないということがあって、日常から活動数が少ないという、地域での課題というふうにして挙げられてきております。それから2次に向けての課題ということで、これも1次を受けての反省点などが含まれているのですけれど、中学生の身体活動が減っているとか、高校生はもっと酷かったとか、それから子供の頃からの体づくりということも大事であるということ。あるいは人口が減っていくことによって地域の担い手が減ってしまっている、足りないという意見も出されております。それから子育て支援の充実ですとか、もっと広い部分で回答いただいたところがあるのですけれど、やはりマンパワーの不足であったり、総合型地域スポーツクラブといったキーワードが出てきております。そしてこういったキーワードを少し整理したのがこういった図に表れているのですが、テキストファイリングという、言葉を拾い出してその係わりの度合いを見たものです。非常にサンプルの数が少なくて十分な解析ができたとは言えないのですけれど、この線の太い部分というのが、それぞれの言葉が重複して意見のなかに出てきているということなんです。多少、先程の自由回答の言葉を整理したところもありますけど、運動習慣それから環境整備というところがやはり同じようなかたちで、運動習慣という言葉が出てくると環境という言葉、あるいはマンパワーとか、総合型地域スポーツクラブであ


るとか、そういった環境に関する言葉と重なって出てくることが多いということが分かります。それから当然、運動習慣と未達成というところの言葉も重なって出てきていると。それから未達成という部分で、高齢者、女性、悪化といったところの繋がりが表れています。これは出てきた言葉全体の繋がりを見たのですが、2枚目の図が未達成という言葉、目標が達成できなかったという言葉と重複してくる言葉の関係を見たところで、やはり運動習慣、当然といえば当然ですが、運動習慣という言葉との重複が多かった。それから未達成という部分では、女性との線が太かったということです。それから当然、悪化というところの言葉も出てきていますし、高齢者というところも出てきています。先程言ったようにサンプルの数が非常に少なくて自由回答をズラッと分析にかけてもなかなか本質的な部分というのは見えてこないのですが、今回回答をいただいた結果からは、こういった未達成であるといったことに関しては女性であったり高齢者であったり、それから悪化しているといったところの言葉のうえでの関連がありますということでありました。

最後にまとめですけれど、こういった取り組み状況、達成状況等を見てきますと、やはり達成率というものが、達成しましたと言っているのだけれど、達成状況が把握できていないところも少なくない。そうなるべくと、具体的な評価方法というものもよく考えていく必要があるのではないかと思います。それから第2次の推進計画を見ていきますと運動習慣者の増加ということにウエイトを置いた推進計画が作られているということです。ここでは、具体的にどういう事業を展開していくのか、あるいはこういったプログラムを策定していくのかということを考えていかねばならない。それから総合型地域スポーツクラブ等との連携可能性というふうに書きましたけれど、環境整備といった視点から見ますと地域にそういった受け皿があれば、そういったところは積極的に使っていき、そういった事業の担い手となる環境というものを地域のなかに作っていく、あるいはあれば連携をしていく、そのための方策というものを検討していく必要があるのではないかと考えてございます。以上で私の発表は終わらせていただきます。どうもありがとうございます。




健康かごしま21への県下自治体の取り組みと展望

鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター
北村尚浩




調査の概要

- 鹿児島県内全43市町村を対象とした質問紙調査
 - 平成25年11月から12月にかけて、郵送による配布、ファックスによる回答
- 22市町村から回答（回収率51.2%）
- 調査内容
 - 健康かごしま21（第1次）への取組状況と達成度
 - 健康かごしま21（第2次）への取組状況
 - 鹿屋体育大学との連携等





健康かごしま21（第1次）目標項目

- 意識的に運動を心がけている人の増加
 - （男性72%以上、女性75%以上）
- 日常生活における歩数の増加
 - （男性8,700歩以上、女性8,700歩以上）
- 運動習慣者の増加
 - （男性30%以上、女性27%以上）
- 外出について積極的な態度をもつ人の増加
 - （60歳以上男性70%以上、女性75%以上、80歳以上52%以上）
- 何らかの地域活動を実施している人の増加
 - （60歳以上男性48%以上、女性35%以上）
- 日常生活における歩数の増加
 - （70歳以上男性6,800歩以上、女性6,200歩以上）



健康日本21取組状況


代表項目	達成状況	都道府県 市町村	
		目標設定した割合（%）	施策を充実した割合（%）
日常生活における歩数の増加	D	94	43
運動習慣者の増加	C	100	58



健康日本21と健康かごしま21最終評価

目標項目	最終評価	
	全国	鹿児島
意識的に運動を心がけている人の増加	B	D
日常生活における歩数の増加	D	D
運動習慣者の増加	C	B
外出に対して積極的な態度を持つ人の増加	A	D
何らかの地域活動を実施している者の増加	A	D
日常生活における歩数の増加	D	D

A: 目標値に達した B: 目標値に達していないが改善傾向にある
C: 変わらない D: 悪化している E: 評価不能、評価対象外



取組状況

目標項目	実施		非実施		N.A.	
	N	%	N	%	N	%
運動を心がけている人の増加	18	81.8%	4	18.2%	0	0.0%
歩数の増加	15	68.2%	6	27.3%	1	4.5%
運動習慣者の増加	19	86.4%	3	13.6%	0	0.0%
積極的な外出態度の増加	15	68.2%	6	27.3%	1	4.5%
地域活動実施者の増加	10	45.5%	12	54.5%	0	0.0%
歩数の増加	12	54.5%	9	40.9%	1	4.5%



達成状況

目標項目	達成		一部達成		未達成		D.K.		N.A.	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
運動を心がけている人の増加	3	16.7%	1	5.6%	6	33.3%	7	38.9%	1	5.6%
歩数の増加	2	12.5%	0	0.0%	3	18.8%	9	56.3%	2	12.5%
運動習慣者の増加	5	26.3%	2	10.5%	3	15.8%	7	36.8%	2	10.5%
積極的な外出態度の増加	5	31.3%	2	12.5%	1	6.3%	6	37.5%	2	12.5%
地域活動実施者の増加	4	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	60.0%	0	0.0%
歩数の増加	1	7.7%	0	0.0%	2	15.4%	9	69.2%	1	7.7%



健康づくり推進計画等の策定状況

策定済み	策定中		実施中		未策定		N.A.		
	N	%	N	%	N	%	N	%	
5	22.7%	3	13.6%	4	18.2%	9	40.9%	1	4.5%

予定なし	予定あり		N.A.		
	N	%	N	%	
2	20.0%	6	60.0%	2	20.0%



健康かごしま21 (第2次) 目標項目

- 日常生活における歩数の増加
 - (成人, 高齢者)
- 運動習慣者の増加
 - (子ども, 成人, 高齢者)
- 住民が運動しやすいまちづくり・環境整備



取組状況

目標項目	行っている		行っていない		N.A.	
	N	%	N	%	N	%
歩数の増加 (成人)	8	36.4%	9	40.9%	5	22.7%
歩数の増加 (高齢者)	7	31.8%	8	36.4%	7	31.8%
運動習慣者の増加 (子ども)	10	45.5%	6	27.3%	6	27.3%
運動習慣者の増加 (成人)	13	59.1%	3	13.6%	6	27.3%
運動習慣者の増加 (高齢者)	13	59.1%	4	18.2%	5	22.7%
運動しやすい町づくり	6	27.3%	10	45.5%	6	27.3%



目標達成への取組

目標項目	予定		予定なし		達成済み		N.A.	
	N	%	N	%	N	%	N	%
歩数の増加 (成人)	4	28.6%	5	35.7%	0	0.0%	5	35.7%
歩数の増加 (高齢者)	5	31.3%	3	18.8%	0	0.0%	8	50.0%
運動習慣者の増加 (子ども)	2	16.7%	4	33.3%	0	0.0%	6	50.0%
運動習慣者の増加 (成人)	1	10.0%	1	10.0%	1	10.0%	7	70.0%
運動習慣者の増加 (高齢者)	1	10.0%	2	20.0%	1	10.0%	6	60.0%
運動しやすい 町づくり	4	25.0%	5	31.3%	1	6.3%	6	37.5%

総合型地域スポーツクラブとの連携

連携あり		連携なし		D.K.		N.A.	
N	%	N	%	N	%	N	%
7	31.8%	8	36.4%	4	18.2%	3	13.6%

目標項目	連携あり		連携なし		N.A.	
	N	%	N	%	N	%
歩数の増加	3	13.6%	12	54.5%	7	31.8%
運動習慣者の増加	6	27.3%	9	40.9%	7	31.8%
運動しやすい町づくり	1	4.5%	14	63.6%	7	31.8%

1次からの課題

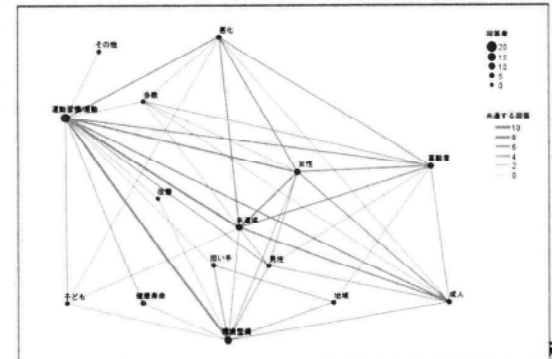
- ・意識的に運動を心がけている人は、成人男女がかなり目標に及ばなかった。
- ・1日の平均歩数では、策定時より増加しているのは20歳～69歳男性だけで、他は減少していた。
- ・しかも、いずれにおいても目標にかなり及ばず、国と比較しても少ない状況であった。
- ・外出について積極的な態度を持つ人の割合を見ると、男性は策定時より増加していたが、女性は減少しており目標にはかなり及ばなかった。
- ・悪化した指標として、成人の肥満度の減少、運動習慣者の増加、20歳代女性のやせ者の減少などがある。
- ・今後の健康づくりのためにも、身体活動・運動の向上への対策が重要課題となっている。
- ・運動習慣を持つ方には年齢差があり、特に40歳代の男性の実施率が課題。
- ・男性運動教室を実施しても、参加者を集めるのに非常に苦労する。
- ・年次評価する中で、他の領域と比較し運動領域は効果が出にくい。
- ・運動に関する項目はかなり改善していた。
- ・離島で交通手段が少ないこともあり、日頃からの活動性が低いところがあるので、今後ともウォーキングなど手軽にできる運動を助めていきたい。

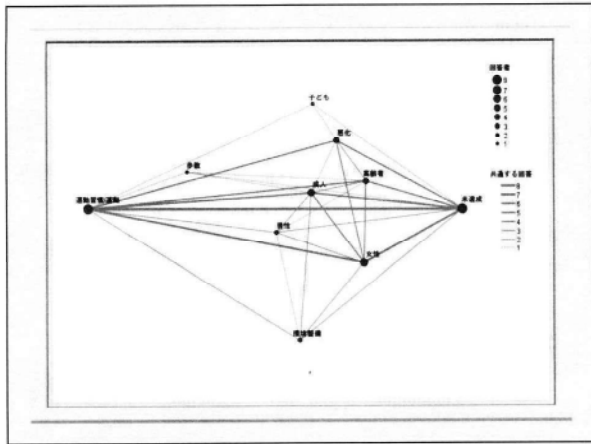
2次に向けての課題

- ・第1次では、1日の平均歩数の増加が目標にかなり及ばず、国と比較しても少ない状況にあった。
- ・運動習慣者については、男性は増加傾向にあったが、20歳～59歳の女性は増加傾向になく、男性や国と比較してもかなり少ない状況であった。
- ・週3回以上、1日30分以上の身体活動をしている中学生は減少してきており、高校生では更に減少していた。
- ・子どもの頃からの身体づくりには、食事と運動が大切であることから、すこやかな生活習慣について普及・啓発を図ることが必要である。
- ・第1次では外出について積極的な態度を持つ人の割合は、男性は増加していたが、女性は減少していた。
- ・積極的に外出をすることで、社会との交流や生きがいを持つことができることから、高齢者のボランティア活動や地域活動などの社会参画や生きがいづくりを推進していく必要がある。
- ・人口減に伴う地域の担い手不足。
- ・関心のある所とない所の健康格差がみられる。
- ・健康観や健康への意識が多様化している。

2次に向けての課題 (続き)

- ・健康寿命の延伸。
- ・生活習慣病の発症予防。
- ・こころの健康づくり対策。
- ・食育の推進及び歯科保健の充実。
- ・保健医療体制の充実。
- ・子育て支援の充実。
- ・健康増進担当課のみでなく、教育委員会、建設課等と連携し、運動に取り組みやすい雰囲気づくり、環境整備を行っていくためのシステムづくりが課題。
- ・健康寿命の延伸。
- ・推進していかなければならないが、中心的役割を担うのは行政しかなく、なかなか進んでいない。
- ・特定健診の受診率向上。
- ・マンパワーの不足。
- ・総合型地域スポーツクラブ等の運営が活発になるなど、地域の取り組みが増えるといいと思われる。





まとめ

- 達成率, 達成状況の把握
➡ 具体的な評価方法の検討
- 運動習慣者の増加にウエイトを置いた推進計画 (2次)
➡ 具体的な事業展開・プログラムの策定
- 総合型地域スポーツクラブ等との連携可能性
➡ 事業の担い手となる環境整備・連携方策の検討

